

CONVOCATION DAY 2019 SPRING

新入生交流事業

2019.4.13 SAT 大和キャンパス



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

コンボケーションデイとは

コンボケーションデイは、1年生を対象に春と秋に開催される“学生同士のコミュニケーション”をテーマとした交流企画です。今年度の春のコンボケーションデイは大和キャンパスで開催し、パラスポーツであるブラインドサッカーを通じて、他者を思いやり支え合うことや、声かけによるコミュニケーションの重要性を体験するプログラムを実施しました。

テーマ 他者との交流・他者理解

パラリンピック競技『ブラインドサッカー』とは

『ブラインドサッカー』は、視覚に障害を持った選手がプレーできるように考案されたサッカーです。音が出るボールを使用し、「フィールドプレーヤー」は全員がアイマスクを着用します。また、アイマスクを着用しない「ゴールキーパー」と「ガイド」が、ピッチ内の情報やゴールの位置などを「声」で選手に伝えます。ボールの音と、仲間どうしの声かけによるチームプレーが大切な要素となる競技です。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックで、宮城県はサッカーの開催地になっています。多くの学生がパラリンピックの応援やボランティアに参加し、地域を盛り上げるきっかけになると期待します。

2019年度 コンボケーションデイ〈春〉のプログラム内容

ブラインドサッカーを通じて視覚のない世界を体験。
思いやりのあるコミュニケーションを学ぶ。

1 ブラインドサッカーに関わる私たちの想い

パネルディスカッション

講堂

パネリストは、ブラインドサッカー男子日本代表主将の川村怜選手、ブラインドサッカー男子日本代表強化指定選手の佐々木智昭選手、ブラインドサッカー女子日本代表主将の鈴木里佳選手、日本ブラインドサッカー協会職員の佐藤豪氏。一般社団法人SC.FIELD代表の大坂ともお氏による司会のもと、ブラインドサッカーという競技についての基礎知識から競技を始めたきっかけ、プレーする上で大切にしていることや2020年パラリンピックへの抱負、障害を持つ方と健常者とのコミュニケーションやよりよい共存についてなどのお話を聴講しました。



川村怜選手(左)と佐々木智昭選手(右)

鈴木里佳選手(左)と佐藤豪氏(右)



2 体験して感じる凄さ、プロの選手の技に感動

実技披露とボールを使ったレクリエーション

体育館

日本代表選手らによる実技披露を見学、ボールの勢いや動きの素早さを間近で体感しました。また、実際にアイマスクを着け、ボールを使った簡単なゲームで、視覚以外の感覚を使うレクリエーションに挑戦。渡す際にボールを鳴らす・声をかける・距離を縮めるなどの工夫を楽しく体験しました。思うようにボールを蹴ることができない難しさを経験することで、プロの選手の凄さを実感しました。



2019年度 コンボケーションデイ〈春〉の実施概要

新入生は男女混合・3学群混合で構成されたグループで、メニューを体験しました。午前中は、講堂でブラインドサッカー関係者の方々によるパネルディスカッションを聴講。また、9～10人のチームに分かれて大和キャンパス探検ラリーを行いました。午後は、ブラインドサッカーの実技披露見学、ボールを使ったりアイマスクをつけてのレクリエーション、白杖とアイマスクを使った歩行体験、グループワークなどに取り組みました。

◇実施日時／平成31年4月13日(土) 10時15分～17時

◇開催場所／宮城大学大和キャンパス

◇新入生428名

〈ご協力団体〉

コルジャ仙台(宮城のブラインドサッカーチーム)、

日本ブラインドサッカー協会 ほか



3 視覚以外の感覚で行動する大変さを体感する

白杖とアイマスクを使った歩行体験

2F廊下・ブリッジ

白杖を持ったアイマスク着用者と晴眼状態の歩行介助者でペアを組み、交互に歩行体験を行いました。アイマスク着用者は歩行介助役のガイドで障害物を避けながら歩行しました。視覚に頼らず歩く大変さや、介助役として相手を思いやるガイドの仕方を学びました。



4 いつもと違うコミュニケーションでふれあう

アイマスクを着用したレクリエーション

1Fエントランス

全員アイマスクを着用し、視覚がない中で互いに相手を探しながら、同じ血液型や誕生日などのグループをつくりました。大きな声で呼び合ったり、手探りで確認し合うなど、いつもと違うコミュニケーションでふれあいました。



INTERVIEW

参加した新入生の声

- ブラインドサッカーを見たとき、本当に目が見えているような動きに驚いた。実際に試合を見てみたいと思った。
- 川村選手と佐々木選手が互いに支え合い、障害の有無に関わらず一人の人間として対等に関わり合っていると知り、感動した。
- アイマスクをして動こうとした時、とても怖かった。周りの状況を知るために聴覚を研ぎ澄まし声を出すのが大切だと感じた。
- アイマスク着用で人や障害物の存在、表情などの情報が無くなり、普段いかに視覚で得た情報に頼り過ぎているかが分かった。
- 視覚障害者の方が歩いていたら道をふさいではならないし、ぶつかりそうになったら物をよけたり誘導してあげたいと思った。
- 傍観者でないこと。自分にできる範囲の手助け(荷物持ちや案内)ができるよう心がけたい。

大和キャンパス探検ラリー

チーム毎にキャンパスを探検

大和キャンパスは、グローバルcommons、スチューデントcommons、ディスカバリーcommons、メディアシアターやトレーニングルームなどがあり、敷地内のあちこちにアート作品や東北で作られたこだわりの家具などが設置されています。スタンプラリーやクイズなど、キャンパスを探検することで達成できる25のミッションを、時間内にいくつかクリアできるかを競いました。閉会式では、得点上位3グループの表彰が行われ、「太白キャンパス産のお米」をはじめとした賞品が贈呈されました。



グループワーク

“気づきを分かち合う”交流から柔軟な発想へ

ブラインドサッカーについてのパネルディスカッションや実技披露、アイマスクを着用しての歩行体験やレクリエーションなどを通して、気づいたことがたくさんあったコンボケーションデイ。視覚がない中で行動する大変さや不安などの感想、ブラインドサッカーへの興味や参加について、さらには健常者も障害者も誰もが暮らしやすい街について、など様々な声があがりました。大和キャンパスを探索して感じたことなどを含め、3学群が混在するグループで話し合い、共有するグループワークを実施しました。



ブラインドサッカー競技用ボール (サイン入り)の贈呈式

いよいよ2020年に東京で開催されるパラリンピック、その公式競技であるブラインドサッカーの日本代表選手らの貴重なお話を伺うことができた今回。記念として選手のサインが入ったブラインドサッカー専用ボールが贈呈されました。



ゲストからのメッセージ

見える人・見えない人が協力して 勝利を目指すことが競技の魅力です

昨年に引き続き宮城大学にご招待いただきましたが、この取り組み自体が素晴らしいことだと思います。サッカーだけではなく、コミュニケーションの重要ななどいろんなことを伝えられるのがブラインドサッカーの魅力です。見える人・見えない人が協力して勝利を目指すことから、人間の可能性や共生社会のあり方などを感じてほしいと思います。パラリンピック開催500日前というこの日に、皆さんと交流できて良かったです。今日をきっかけに興味を持ち、観戦やボランティアなどで競技に参加してもらえると嬉しいです。



ブラインドサッカー
男子日本代表主将
川村 怜 選手

大学生活はいろいろ体験できる時期、 大切な出会いもきっと待っています

私はブラインドサッカーを知って8年ほど活動をサポートしたりガイドをしていましたが、いつしか“プレーする側になりたい”と思うようになり選手を目指しました。今があるのは大学の先輩である川村選手との出会いが大きいです。いろんな体験ができる大学の4年間、学群やジャンルを越えて勉強も遊びも取り組み、社会人になっても大切にしたい出会いがきっとあります。このブラインドサッカーとの出会いもその一つだいいと思います。試合を生で見ると感じるものがたくさんあるので、ぜひ一度、観戦してください。



ブラインドサッカー
女子日本代表主将
鈴木 里佳 選手

学長メッセージ

今日の貴重な経験を、これからのユニバーサル社会づくりに役立てて

人間のコミュニケーションツールとして普段一番機能している“目”を使えないことで、耳を使う・大きな声を出すなど、いろんな経験をしたと思います。健常者と視覚障害者が分け隔てなくコミュニケーションし関係を作るという点が、ブラインドサッカーのすごく面白いところ。これからの社会は、障害者だけではなく高齢者や外国人など様々な人で構成され、その全ての人が活躍できる「ユニバーサル社会」を目指しています。今日の経験を、どんな人も幸せに暮らせる社会づくりに役立ててくれることを願っています。



川上 伸昭 学長